

各科診療科長  
各科診療科副科長  
各医局長 殿  
各看護師長



# Drug Information News



平成31年3月27日

## NO.309

### 目次

- 【1】** 医薬品・医療機器等安全性情報NO.361 ..... P1  
\* 医薬品による筋障害に関するゲノム研究について
- 【2】** 添付文書の改訂 ..... P9
- 【3】** 市販直後調査対象品目(院内採用薬)..... P11
- 【4】** Q&A～慢性便秘症の薬物治療について～..... P12
- 【5】** インシデント事例からの注意喚起..... P15



## 当院採用の抗ヒスタミン薬（点眼薬）



リボスチン点眼液0.025%  
成分名：レボカバスチン塩酸塩

院内で  
使えます



アレジオン点眼液0.05%  
成分名：エピナスチン塩酸塩

院外専用



パタノール点眼液0.1%  
成分名：オロパタジン塩酸塩

薬剤部HP (<http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/index.html>) に内容を掲載しています。

大分大学医学部附属病院薬剤部医薬品情報管理室

(内線:6108 E-mail:DI@oita-u.ac.jp)

# 【1】 医薬品・医療機器等安全性情報 NO. 361

\*詳細はPMDA（医薬品医療機器総合機構） <http://www.pmda.go.jp/files/000228500.pdf>

## 1 医薬品による筋障害に関する ゲノム研究について

### 1. はじめに

医薬品の副作用の中でも、本来期待する薬理作用に基づかないものは、その発症予測が一般に難しく、かつ重症で発症後に治療を必要とする場合が多い傾向にあります。しかしその発症に関連するゲノム情報の探索により、発症を予測しうる可能性が平成16年頃から報告されていました。厚生労働省及び国立医薬品食品衛生研究所は、これらゲノム情報を活用した予測・予防型の副作用安全対策を実現するため、横紋筋融解症（薬剤性筋障害）、皮膚障害（スティーブンス・ジョンソン症候群（皮膚粘膜眼症候群，SJS）及び中毒性表皮壊死融解症（TEN））、間質性肺疾患の副作用に関する発症患者ゲノム試料及び臨床情報を収集し、その解析を行い安全対策へ活用すべく研究を行っています。平成30年12月末までに、横紋筋融解症（筋障害）では233例、皮膚障害では327例、間質性肺疾患では226例を収集しました。またSJS/TENに関する解析結果を、本情報336号<sup>1)</sup>にて報告しています。本稿では、薬剤性筋障害研究の海外状況と本邦における成果について紹介します。

### 2. 横紋筋融解症を含む薬剤性筋障害について

横紋筋融解症は、骨格筋の細胞が融解、壊死することにより、筋肉の痛みや脱力などを生じる病態であり、重症な場合は筋肉から血液中に流出した大量のミオグロビンが腎臓の尿細管を傷害し、急性腎不全を起こすことがあります<sup>2)</sup>。この過程で、骨格筋に多く存在するクレアチンキナーゼ（CK）の血中レベルが高値となるため、診断の一助に用いられています。より軽症な病態である筋炎・筋痛や筋力低下を含めて、筋症（ミオパチー）と呼ばれることもあります。米国の学会（American College of CardiologyとAmerican Heart Association）の専門家委員会では、スタチン（HMG-CoA還元酵素阻害薬）が被疑薬となる場合、筋痛は血清CK値の上昇が見られない筋痛または脱力症状、筋炎はCK上昇を伴う筋症状、横紋筋融解症はクレアチニン上昇（通常は茶色の尿と尿中ミオグロビン上昇）を伴う顕著な（通常、正常上限の10倍を超える）CK値上昇を示す筋症状症例と定義されています<sup>3)</sup>。日本でもこの領域の診療指針が最近公開されました<sup>4)</sup>。

これら薬剤性筋障害の被疑薬としては、前述のスタチンの他、フィブラート系高脂血症薬、抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、ニューキノロンを主体とする合成抗菌剤などが知られています。米国における調査では、スタチン服用患者の2～7%で筋痛が、0.1%～1%で筋炎が、0.08%程度で重篤な筋障害が、それぞれ発生したとされています<sup>2)</sup>。発症機序は不明ですが、スタチンでは細胞内のミトコンドリア代謝異常の関与が提唱されており<sup>4,5)</sup>、リスク因子としては、高齢女性、小柄な体格、アジア人、腎機能障害、甲状腺機能低下症などが知られています<sup>4,6)</sup>。この他、一般的には、脱水やウィルス感染、運動負荷もリスク因子となります<sup>2)</sup>。

### 3. 薬剤性筋障害に関するゲノム研究について

これまでに多くの薬剤性筋障害に関するゲノム解析がなされていますが、報告のほとんどはスタチンが被疑薬の結果であるため、本項ではスタチンによる筋障害に絞って記載します。

#### (1) 海外研究の結果

シンバスタチンを1日80mg投与された患者を対象にした英国の研究で、筋障害に加えCK値が正常上限の10倍を超えて上昇する症例などとそれ以外の耐性例を解析した結果、スタチンを肝臓に取り込むトランスポーターであるOATP1B1をコードする*SLCO1B1*遺伝子の機能低下型多型である521T>C, Val1174Alaが、有意に筋障害発症と関連することが報告されました<sup>7)</sup>。野生型群に比して、ホモ接合型群では、オッズ比は16.9(95%信頼区間(CI):4.7-61.1),  $P=2 \times 10^{-9}$ となりました。本結果は、1日40mg投与の群を中心に検証もなされたものです。日本での用量は1日最大20mgであるため、結果をそのまま日本人に適用できるかは不明です。

その後、多くの検証的研究が本*SLCO1B1*多型に関してなされています。シンバスタチンに関しては、薬剤性筋障害との有意な関連や傾向が複数の報告で認められています<sup>8-10)</sup>。しかし、アトルバスタチン、プラバスタチンなどの他のスタチンでは、有意な関連は認められていません<sup>8-10)</sup>。一方、米国で横紋筋融解症が多発し、死亡例が多く出たため自主的に市場撤退したセリバスタチン(本邦でも自主撤退)では、本多型との有意な関連が報告されています<sup>11)</sup>。シンバスタチンとセリバスタチンにおける有意な関連は、最近のメタ解析でも示されています<sup>12)</sup>。

また細胞内のミトコンドリアでグアニド基をグリシンに転移させ、クレアチン合成に関与するグリシンアミノ転移酵素をコードする*GATM*遺伝子の多型に関しても、複数の論文が報告されていますが、一定の方向性を示す統一的な結果は示されていません。

#### (2) 国立医薬品食品衛生研究所での解析結果

金沢医科大学などの8箇所の大学病院との共同研究として52症例(アトルバスタチン20例, プラバスタチン14例など, 6種類のスタチン薬がそれぞれ投与された症例の総体)のスタチンによる薬剤性筋障害患者に関し、ゲノム解析を行いました<sup>13)</sup>。対照は2,878例の日本人健康成人の結果としました。本症例群では、*SLCO1B1*, *RYR2*, *GATM*の遺伝子多型については、両群で有意な差は認められませんでした(*SLCO1B1*多型については、オッズ比1.609(95%CI:0.999-2.591),  $P=0.067$ と弱い傾向は認められた)。一方、免疫応答に関与するヒト白血球抗原HLAの1タイプである*HLA-DRB1\*04:06*との有意な関連(保有者頻度比較で、オッズ比3.19(95%CI:1.53-6.66), 多重性補正後の $P=0.045$ )が見られました。なお、現時点で薬剤性筋障害の発症機序は明らかではありませんが、一般にHLA分子は免疫反応の惹起に関与するため、免疫学的な機序が発症に関連している可能性も考えられました。

### 4. おわりに

以上、横紋筋融解症(薬剤性筋障害)に関するゲノム解析などの現状と国立医薬品食品衛生研究所で遂行されている解析の進捗とを概観しました。論文として結果が刊行されたものの日本人での解析事例(症例数)は未だ少なく、ゲノムとの関連はスタチンの種類などに依存する場合もあり、また、日本での使用実態・投薬量は海外と異なるため、海外の結果をそのまま日本人に外挿できない可能性もあります。こうした複数の問題が現状では残っており、結果を直ちに薬剤性筋障害回避に用いることは難しい状況ですが、今後の検証解析などにおいてその有用性が確認されれば、臨床応用に向けた基盤情報となり得ると考えられます。

国立医薬品食品衛生研究所では、日本製薬団体連合会、医薬品医療機器総合機構、各製造販売企業、医療関係者及び患者の協力を得て研究を行っています。本研究の対象となる副作用の発現頻度は低いものの致命的となるおそれがあり、また、国や地域により異なる発症関連因子が報告されていることから、発生予測に有用な解析結果を得るためには、日本人におけるこれらの副作用の発現例の情報収集が非常に重要だと考えています。医薬関係者におかれましては、より一層の知見集積による予測・予防型安全対策の進展のため、医薬品の使用後に、横

紋筋融解症，皮膚障害（SJS/TEN），又は間質性肺疾患を発症した症例が認められた場合には，医薬品医療機器総合機構又は被疑薬の製造販売業者へ情報提供いただくとともに，引き続き，本研究への御協力もよろしくお願ひします。

〈参考文献〉

- 1) 医薬品・医療機器等安全性情報. 336, 平成28年（2016年）9月, 厚生労働省医薬・生活衛生局
- 2) 重篤副作用疾患別対応マニュアル“横紋筋融解症”平成18年11月, 厚生労働省
- 3) Pasternak RC et al. : ACC/AHA/NHLBI clinical advisory on the use and safety of statins. J Am Coll Cardiol. 40:567-572 (2002).
- 4) 梶波康二, 他:スタチン不耐に関する診療指針2018. 日本動脈硬化学会  
([http://www.j-athero.org/publications/pdf/statin\\_intolerance\\_2018.pdf](http://www.j-athero.org/publications/pdf/statin_intolerance_2018.pdf)) .
- 5) Stoes ES, et al. : Statin-associated muscle symptom : impact on statin therapy-European Atherosclerosis Society Consensus Panel Statement on Assessment, Aetiology and Management. Eur Heart J. 36:1012-1022 (2015).
- 6) Laufs Ug, et al. : Statin intolerance. Curr Opin Lipidol. 26:492-501(2015).
- 7) SEARCH Collaborative Group, et al. : SLC01B1 variants and statin-induced myopathy a genome-wide study. N Engl J Med. 359:789-799(2008).
- 8) Voora D, et al. : The SLC01B1\*5 genetic variant is associated with statin-induced side effects. J Am Coll Cardiol. 54:1609-1616(2009).
- 9) Brunham LR, et al. : Differential effect of the rs4149056 variant in SLC01B1 on myopathy associated with simvastatin and atorvastatin. Pharmacogenomics J. 12:233-237(2012).
- 10) Carr DF., et al. : SLC01B1 genetic variant associated with statin-induced myopathy: a proof of concept study using the clinical practice research datalink. Clin Pharmacol Ther. 94:695-701(2013).
- 11) Marciante KD, et al. : Cerivastatin, genetic variants, and the risk of rhabdomyolysis. Pharmacogenet Genomics. 21:280-288(2011).
- 12) Xiang Q, et al. : Association between SLC01B1 T521C polymorphism and risk of statin-induced myopathy:a meta-analysis. Pharmacogenomics J. 18:721-729(2018).
- 13) Sai K et al. : A possible role for HLA-DRB1\*04:06 in statin-related myopathy in Japanese patients. Drug Metab Pharmacokinet. 31:467-470(2016).

# 2

## 重要な副作用等に関する情報

平成31年2月12日に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について、改訂内容等に関する情報をお知らせします。

### 1. トラスツズマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕 ハーセプチン注射用150（科限）（中外製薬）

〔薬効分類名〕 その他の腫瘍用薬

〔効能又は効果〕 HER2過剰発現が確認された乳癌、HER2過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

腫瘍崩壊症候群：腫瘍崩壊症候群があらわれることがあるので、血清中電解質濃度及び腎機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置（生理食塩液、高尿酸血症治療剤等の投与、透析等）を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。

<参考>

直近約3年6ヶ月（平成27年4月～平成30年9月）の副作用報告であって、因果関係が否定できないもの。

腫瘍崩壊症候群：2例（うち死亡0例）

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：約2万6千人

販売開始：ハーセプチン注射用150：平成13年6月

### 2. ニボルマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕 オプジーボ点滴静注20mg（科限）、同点滴静注240mg（科限）（小野薬品工業）

〔薬効分類名〕 その他の腫瘍用薬

〔効能又は効果〕 悪性黒色腫

切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

根治切除不能又は転移性の腎細胞癌

再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫

再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌

がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌

がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

[副作用（重大な副作用）]

**重篤な血液障害**：免疫性血小板減少性紫斑病，溶血性貧血，無顆粒球症等の重篤な血液障害があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

**血球貪食症候群**：血球貪食症候群があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

<参考>

直近約3年7ヶ月（平成27年4月～平成30年10月）の副作用報告であって，因果関係が否定できないもの。

- ・血球貪食症候群関連症例：3例（うち死亡0例）
- ・溶血性貧血関連症例：3例（うち死亡0例）
- ・好中球減少関連症例（無顆粒球症を含む）：12例（うち死亡0例）

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：約1万7千人

販売開始：平成26年9月

### 3. パルボシクリブ

[販 売 名] イブランスカプセル25mg（院外），同カプセル125mg（院外）（ファイザー）

[薬効分類名] その他の腫瘍用薬

[効能又は効果] 手術不能又は再発乳癌

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

[重要な基本的注意]

**間質性肺疾患**があらわれることがあるので，本剤の投与にあたっては，初期症状（呼吸困難，咳嗽，発熱等）の確認及び胸部X線検査の実施等，患者の状態を十分に観察すること。また，必要に応じて，胸部CT，血清マーカー等の検査を実施すること。

[副作用（重大な副作用）]

**間質性肺疾患**：間質性肺疾患があらわれることがあるので，患者の状態を十分に観察し，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止するなど，適切な処置を行うこと。

<参考>

直近約3年8ヶ月（平成27年4月～平成30年11月）の副作用報告であって，因果関係が否定できないもの。

間質性肺疾患：6例（うち死亡0例）

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：約7千人

販売開始：平成29年12月

#### 4. ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕 キイトルーダ点滴静注 20mg（科限），同点滴静注 100mg（科限）（MSD）

〔薬効分類名〕 その他の腫瘍用薬

〔効能又は効果〕 悪性黒色腫

切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫

がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌

がん化学療法後に増悪した進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

重篤な血液障害：免疫性血小板減少性紫斑病，溶血性貧血，赤芽球癆，無顆粒球症等の重篤な血液障害があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。

血球貪食症候群：血球貪食症候群があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。

<参考>

直近約3年7ヶ月（平成27年4月～平成30年10月）の副作用報告であって，因果関係が否定できないもの。

- ・血球貪食症候群関連症例：7例（うち死亡0例）
- ・好中球減少関連症例（無顆粒球症を含む）：4例（うち死亡0例）

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：約9千人

販売開始：平成29年2月

# 3

## 使用上の注意の改訂について (その301)

平成31年2月12日に改訂を指導した医薬品の使用上の注意について、改訂内容、主な該当販売名等をお知らせします。

### 1. その他の腫瘍用薬

#### トラスツズマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕ハーセプチン注射用150（科限）（中外製薬）

〔副作用（重大な副作用）〕

腫瘍崩壊症候群：腫瘍崩壊症候群があらわれることがあるので、血清中電解質濃度及び腎機能検査を行うなど、患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置（生理食塩液、高尿酸血症治療剤等の投与、透析等）を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。

### 2. その他の腫瘍用薬

#### ニボルマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕オプジーボ点滴静注20mg（科限）、同点滴静注240mg（科限）（小野薬品工業）

〔副作用（重大な副作用）〕

重篤な血液障害：免疫性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、無顆粒球症等の重篤な血液障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

血球貪食症候群：血球貪食症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

### 3. その他の腫瘍用薬

#### パルボシクリブ

〔販売名〕イブランスカプセル25mg（院外）、同カプセル125mg（院外）（ファイザー）

〔重要な基本的注意〕

間質性肺疾患があらわれることがあるので、本剤の投与にあたっては、初期症状（呼吸困難、咳嗽、発熱等）の確認及び胸部X線検査の実施等、患者の状態を十分に観察すること。また、必要に応じて、胸部CT、血清マーカー等の検査を実施すること。

〔副作用（重大な副作用）〕

間質性肺疾患：間質性肺疾患があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。



#### 4. その他の腫瘍用薬

##### ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）

〔販売名〕キイトルーダ点滴静注20mg（科限），同点滴静注100mg（科限）（MSD）

〔副作用（重大な副作用）〕

重篤な血液障害：免疫性血小板減少性紫斑病，溶血性貧血，赤芽球癆，無顆粒球症等の重篤な血液障害があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。

血球貪食症候群：血球貪食症候群があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。

#### 5. 抗ウイルス剤

##### グレカプビル水和物・ピブレンタスビル

〔販売名〕マヴィレット配合錠（アッヴィ合同会社）

〔重要な基本的注意〕

肝機能障害，黄疸があらわれることがあるので，定期的に肝機能検査を行うなど，観察を十分に行うこと。

〔副作用（重大な副作用）〕

肝機能障害，黄疸：AST，ALT，ビリルビンの上昇等を伴う肝機能障害，黄疸があらわれることがあるので，異常が認められた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 【2】添付文書の改訂

薬効分類番号	商品名	①警告	②禁忌	③効能効果	④効能効果 (注意)	⑤用法・用量	⑥用法用量 (注意)	⑦原則禁忌	⑧慎重投与	⑨重要な基本的注意	⑩相互作用 (禁忌)	⑪相互作用 (注意)	⑫副作用	⑬重大な副作用	⑭高齢者投与	⑮妊産婦授乳婦投与	⑯小児投与	⑰過量投与	⑱適用上の注意	⑲薬物動態	⑳その他	改訂年月日
429	<a href="#">ハーセプチン注射用150(科限)</a>													○								H31.2
429	<a href="#">オプジーボ点滴静注20mg(科限)、240mg(科限)</a>													○								H31.2
429	<a href="#">イブランスカプセル25mg(院外)、125mg(院外)</a>									○		○	○									H31.2
429	<a href="#">キイトルーダ点滴静注20mg(科限)、100mg(科限)</a>													○								H31.2
625	<a href="#">マヴィレット配合錠(科限)</a>									○		○	○									H31.3
113	<a href="#">ピムパット錠50mg、100mg</a>					○	○						○				○					H31.2
114	<a href="#">インフリーSカプセル200mg</a>																				○	H31.2
131	<a href="#">トラバタンズ点眼液0.004%</a>												○									H31.2
131	<a href="#">デュオトラバ配合点眼液</a>												○									H31.2
131	<a href="#">マキユエイド眼注用40mg(科限)</a>													○								H31.2
131	<a href="#">ベガモックス点眼液0.5%</a>												○				○					H31.2
132	<a href="#">アラミスト点鼻液27.5μg56噴霧用</a>									○												H31.2
132	<a href="#">小児用フルナーゼ点鼻液25μg56噴霧用</a>									○		○	○									H31.2
214	<a href="#">ピソノテープ4mg</a>					○	○		○	○	○	○										H31.1
229	<a href="#">アドエア100ディスカス60吸入用、250ディスカス28吸入用、60吸入用(院外)、500ディスカス60吸入用</a>									○												H31.2
229	<a href="#">アドエア50エアゾール120吸入用(院外)、125エアゾール120吸入用(院外)、250エアゾール120吸入用(院外)</a>									○												H31.2
229	<a href="#">フルタイド100ディスカス、200ディスカス、50μgエアゾール120吸入用</a>									○												H31.2
243	<a href="#">テリボン皮下注用56.5μg(科限)</a>												○								○	H31.2
249	<a href="#">ゴナックス皮下注用80mg(科限)、120mg(科限)</a>					○	○						○								○	H31.1
249	<a href="#">ビクトーザ皮下注18mg(科限)</a>								○								○					H31.1
264	<a href="#">デルモベート軟膏0.05%</a>												○									H31.2
264	<a href="#">デルモベートスカルブローション0.05%(科限・院外)</a>												○									H31.2
264	<a href="#">キンダベート軟膏0.05%(科限)</a>												○									H31.2
264	<a href="#">リンデロン-V軟膏0.12%、Vクリーム0.12%</a>												○									H31.2
264	<a href="#">リンデロン-Vローション 0.12%</a>												○									H31.2
396	<a href="#">スーグラ錠50mg(科限)</a>			○	○	○	○			○	○	○	○									H30.12
396	<a href="#">ルセファイ錠2.5mg(科限・院外)</a>								○	○	○			○								H31.2
399	<a href="#">コセンテックス皮下注150mgベン(科限)</a>	○		○	○	○	○			○			○								○	H31.1
399	<a href="#">リクラスト点滴静注液5mg(科限)</a>												○									H31.2
423	<a href="#">イダマイシン静注用5mg(患限)</a>																		○			H31.2

## 【2】添付文書の改訂

薬効分類番号	商品名	①警告	②禁忌	③効能効果	④効能効果 (注意)	⑤用法・用量	⑥用法用量 (注意)	⑦原則禁忌	⑧慎重投与	⑨重要な基本的注意	⑩相互作用 (禁忌)	⑪相互作用 (注意)	⑫副作用	⑬重大な副作用	⑭高齢者投与	⑮妊産婦授乳婦投与	⑯小児投与	⑰過量投与	⑱適用上の注意	⑲薬物動態	⑳その他	改訂年月日
429	<a href="#">テセントリク点滴静注1200mg(患限)</a>			○	○	○	○			○			○	○								H30.12
429	<a href="#">オキサリプラチン点滴静注液「ホスピーラ」50mg/10mL、100mg/20mL</a>						○			○									○			H31.1
625	<a href="#">ゾフルーザ錠10mg(仮)、20mg(仮)</a>												○									H31.3
631	<a href="#">乾燥弱毒生風しんワクチン「北里第一三共」</a>						○															H31.2
636	<a href="#">ミールピック</a>						○															H31.2
799	<a href="#">チャンピックス錠0.5mg(患限・医師限)、1mg(患限、医師限)</a>												○									H31.2
821	<a href="#">イーフェンバツカル錠50μg(科限)</a>												○									H31.1

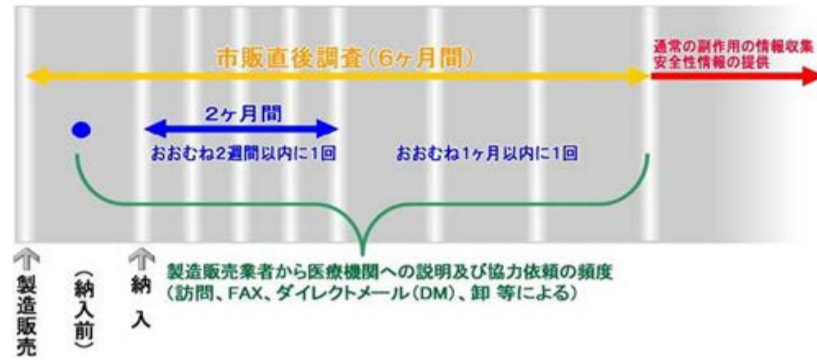
☆各添付文書の改訂の詳細は <http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/DI/index.html> にてご覧いただけます。

### 【3】市販直後調査対象品目(院内採用薬)

市販直後調査とは・・・

新医薬品が一旦販売開始されると、治験時に比べてその使用患者数が急激に増加するとともに、使用患者から、治験段階では判明していなかった重篤な副作用等が発現することがあります。このように新医薬品の特特に注意深い使用を促し、重篤な副作用が発生した場合の情報収集体制を強化する市販直後調査は、市販後現在実施中の市販直後調査については下記の通りです。

副作用・感染症の報告については薬剤部医薬品情報管理室(内線6108)にご連絡ください。



商品名	会社名	一般名	調査開始日
ジェミーナ配合錠	ノーベルファーマ	レボノルゲストレル エチニルエストラジオール	平成30年10月4日
エンタイビオ点滴静注用300mg	武田薬品工業	ベドリズマブ(遺伝子組換え)	平成30年11月7日
ビーリンサイト点滴静注用35μg	アステラス製薬	ブリナツモマブ(遺伝子組換え)	平成30年11月27日
ベオーバ錠50mg	キッセイ薬品	ビベグロン	平成30年11月27日
エイベリス点眼液0.002%	参天製薬	オミデネパグ イソプロピル	平成30年11月27日
モビコール配合内用剤	持田製薬	マクロゴール4000 塩化ナトリウム 炭酸水素ナトリウム 塩化カリウム	平成30年11月29日
プレセデックス静注液200μg/50mLシリンジ「ファイザー」	ファイザー	デクスメデトミジン塩酸塩	平成30年11月29日
ベージニオ錠50mg, 同錠150mg	日本イーライリリー	アベマシクリブ	平成30年11月30日
ゾスパタ錠40mg	アステラス製薬	ギルテリチニブフマル酸塩	平成30年12月3日
スーグラ錠50mg	アステラス製薬	イブラグリフロジン L-プロリン	平成30年12月21日
コセンティクス皮下注150mgペン	ノバルティスファーマ	セクキヌマブ(遺伝子組換え)	平成30年12月21日

の状況も治験時に比べて多様化することか  
性に応じ、販売開始から6ヵ月間について、  
安全対策の中でも特に重要な制度です。

備考
※対象は小児への使用
効能 「1型糖尿病」
効能 「既存治療で効果不十分な強直性脊椎炎」

## 【4】 Q&A 慢性便秘症の薬物治療について

便秘とは、「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義され、原因や症状および病態によっていくつかの病型に分類されます。特に、国際的に使用されている慢性便秘症の診断基準を以下に示します。

### 1. 「便秘症」の診断基準

以下の6項目のうち、2項目以上を満たす

- 排便の4分の1超の頻度で、強くいきむ必要がある
- 排便の4分の1超の頻度で、兎糞状便または硬便（BSFS\*でタイプ1か2）である
- 排便の4分の1超の頻度で、残便感を感じる
- 排便の4分の1超の頻度で、直腸肛門の閉塞感や排便困難感がある
- 排便の4分の1超の頻度で、用手的な排便介助が必要である（摘便・会陰部圧迫など）
- 自発的な排便回数が、週に3回未満である

### 2. 「慢性」の診断基準

6ヶ月以上前から症状があり、最近3ヶ月間は上記基準を満たしていること

\*BSFS：ブリストル便形状スケール

慢性便秘症は、健常人と比較して有意にQOLを低下させるという報告<sup>1)</sup>もありますが、比較的予後は良く内科的に治療可能な場合が多い疾患です。そのような背景から近年、慢性便秘症に対する治療薬が増加しています。「慢性便秘症診療ガイドライン 2017（編集：日本消化器病学会関連研究会、慢性便秘の診断・治療研究会）」を参考に当院採用の便秘症治療薬をまとめ、一覧表（整腸剤を除く）を作成しましたので、一度ご確認下さい。

推奨の強さ（エビデンスレベル）

1：強い推奨、2：弱い推奨

<表：当院採用の慢性便秘症治療薬>

分類	商品名	成分名	特徴	推奨の強さ
浸透圧性下剤	(a) 塩類下剤			
	マグミット錠 330mg 酸化マグネシウム（散剤）	酸化マグネシウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な血清マグネシウム値の測定が必要</li> <li>「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」においては、腎機能障害を有する高齢者には使用しないよう強く推奨されている</li> </ul>	1 (A)
	(b) 糖類下剤			
	ピアーレシロップ 65%	ラクツロース	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応症は、「産婦人科術後の排ガス・排便の促進」、「小児における便秘の改善」のみ</li> <li>内服後 24～48 時間後に下剤効果が発揮される</li> </ul>	1 (A)
	D-ソルビトール経口液 75%「コーワ」	D-ソルビトール	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応症は、「消化管の X 線造影の迅速化、消化管の X 線造影時の便秘の防止」のみ</li> <li>下剤効果はラクツロースと同等であるが、ラクツロースと比較して悪心との関連が高いという報告がある<sup>2)</sup></li> </ul>	1 (A)

浸透圧性下剤	(c) その他			
	【仮】モビコール配合内用剤	マクロゴール 400 塩化ナトリウム 炭酸水素ナトリウム 塩化カリウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性便秘症に対して使用可能な国内初のポリエチレングリコール製剤。ポリエチレングリコールの浸透圧効果により、腸管内の水分量を増加させ、便中水分量の増加を促し、便の軟化、便容積の増によって生理的な大腸の蠕動運動を促進する</li> <li>小児（2歳以上）に使用可能である</li> </ul>	-
下剤 発泡性	新レシカルボン坐剤	炭酸水素ナトリウム リン酸水素ナトリウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>を発生し腸内を刺激する</li> <li>作用はおおよそ10～30分で出現する</li> </ul>	-
膨張性下剤	ポリカルボフィルCa細粒83.3%「日医工」	ポリカルボフィルカルシウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>適応症は、「過敏性腸症候群における便通異常（下痢、便秘）及び消化器症状」であり、慢性便秘症の適応は有していない</li> <li>便形状を正常化し便量を増やすことで排便を促すため、便量が多い症例への使用には注意が必要である</li> </ul>	2 (C)
刺激性下剤	(a) アントラキノン類			
	センナリド錠 12mg	センノシド	長期連用により耐性が出現し、難治性便秘に陥る可能性に注意が必要である。	2 (B)
	アローゼン顆粒	センナ・センナジツ		
	(b) ジフェニール類			
	テレミンソフト坐薬	ピサコジル	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期連用により耐性が出現し、難治性便秘に陥る可能性に注意が必要である</li> <li>米国消化器学会が定める便秘症診療ガイドラインでは、必要時のみ刺激性下剤を使用することが推奨されている</li> </ul>	2 (B)
	ピコスルファートNa内用液 0.75%「JG」	ピコスルファートNa		
上皮機能変容薬	(a) クロライドチャンネルアクチベータ			
	アミティーザカプセル 24μg	ルビプロストン	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦・妊娠している可能性のある女性は禁忌</li> <li>悪心・下痢の副作用が報告されており、特に悪心は若年女性に多い傾向にある<sup>3)</sup></li> </ul>	1 (A)
	(b) グアニル酸シクラーゼC受容体アゴニスト			
リンゼス錠 0.25mg	リナクロチド	<ul style="list-style-type: none"> <li>食後投与は、食前投与に比べ反復投与時に薬力学的な変化が大きく、下痢の発現率が高いことが示されているため、食前に投与する</li> <li>慢性便秘症の他に便秘型過敏性腸症候群に適応を有する</li> </ul>	1 (A)	
消化管運動賦活薬	(a) 5-HT <sub>4</sub> 受容体刺激薬			
	モサプリドクエン酸塩錠 5mg「EE」	モサプリドクエン酸塩水和物	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在日本で使用可能な5-HT<sub>4</sub>受容体刺激薬はモサプリドのみである（欧米での使用報告は少ない）</li> <li>添付文書において、「劇症肝炎や重篤な肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、長期にわたって漫然と投与しないこと」と記載されている</li> </ul>	2 (A)

その他	(a) 胆汁酸トランスポーター阻害薬			
	【仮】 グーフィス錠 5mg	エロピキシバット水和物	・回腸末端部において胆汁酸トランスポーター（IBAT：ileal bile acid transporter）を阻害し、胆汁酸の再吸収を抑制することで、大腸内に流入する胆汁酸の量を増加させ、排便を促す新規作用機序の薬剤	-
分類	商品名	下剤としてのタイプ	添付文書上の効能・効果	推奨の強さ
漢方薬	大建中湯	消化管運動促進 血流増加	腹が冷えて痛み、腹部膨満のあるもの	2 (C)
	大黄甘草湯	大腸刺激	便秘症	
	桃核承気湯	大腸刺激 塩類下剤様作用	比較的体力があり、のぼせて便秘しがちなものの次の諸症：便秘、月経不順、月経困難症など	
	桂枝加芍薬湯	整腸作用	腹部膨満感のある次の諸症：しぶり腹、腹痛	
	桂枝加芍薬大黄湯（院外）	整腸作用	比較的体力のない人で、腹部膨満し、腸内の停滞感あるいは腹痛などを伴うものの次の諸症：急性腸炎、大腸カタル、常習便秘、宿便、しぶり腹	
	調胃承気湯（院外）	大腸刺激 塩類下剤様作用	便秘症	
	潤腸湯（院外）	クロライドチャンネル刺激	便秘症	
	防風通聖散（院外）	大腸刺激 塩類下剤様作用	腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症：便秘、肥満症、むくみ、高血圧の随伴症状	
	大柴胡湯（院外）	大腸刺激 消化管運動促進	比較的体力のある人で、便秘がちで、上腹部が張って苦しく、耳鳴り、肩こりなど伴うものの次の諸症：悪心、嘔吐、食欲不振など	

<<参考文献>>

慢性便秘症診療ガイドライン 2017（編集：日本消化器病学会関連研究会、慢性便秘の診断・治療研究会）  
ポケット医薬品集 2019 年版

<<引用文献>>

- 1) Belsey J, et al. Systematic review: impact of constipation on quality of life in adults and children. Aliment Pharmacol Ther 2010;31:938-949
- 2) Lederle FA, et al. Cost-effective treatment of constipation in the elderly : a randomized double-blind comparison of sorbitol and lactulose. Am J Med 1990;89:597-601
- 3) Eutamene H, et al. Guanylate cyclase C-mediated antinociceptive effects of linaclotide in rodent models of visceral pain Neurogastroenterol Motil 2010;22:312-e84



## 【5】 インシデント事例からの注意喚起

平成 31 年 2 月の院内インシデント報告事例の中から、医薬品を安全に使用するために注意すべき事例などを挙げています。

### 名称が類似している薬剤の取り違いについて

名称が類似している医薬品が処方、調剤、投薬のあらゆる場面で取り違いが起こりえます。医薬品を取り違い患者に投薬された結果、あらゆる有害事象が発現することも十分に考えられます。当院採用の名称類似薬を挙げましたので、ご確認下さい。

<特に過去取り違いが生じた薬剤>

テオドール	テグレート
キサンチン系気管支拡張剤 有効成分 テオフィリン	てんかん治療剤・躁状態治療剤 有効成分 カルバマゼピン

デキサート	デトキソール
副腎皮質ホルモン製剤 有効成分 デキサメタゾン	解毒剤 有効成分 チオ硫酸ナトリウム水和物

リクシアナ	リフキシマ
抗凝固剤 有効成分 エドキサバン	肝性脳症による高アンモニア血症治療剤 有効成分 リファキシミン

メトレート	メントレキセート
抗リウマチ剤（適応症が異なる） 有効成分 メントレキセート	葉酸代謝拮抗剤（適応症が異なる） 有効成分 メントレキセート

デポ・メドロール	ソル・メドロール
持続性合成副腎皮質ホルモン剤 有効成分 メチルプレドニゾン 酢酸エステル	副腎皮質ホルモン剤 有効成分 メチルプレドニゾン コハク酸エステルナトリウム

ナルサス	ナルラビド
持続性癌疼痛治療剤（BASE） 有効成分 ヒドロモルフォン塩酸塩	癌疼痛治療剤（RESCUE） 有効成分 ヒドロモルフォン塩酸塩

アルプロスタジルアルファデクス 注射用、同点滴静注「タカタ」	アルプロスタジル注「F」
プロスタグランジン E1 製剤 有効成分 アルプロスタジルアルファデクス	プロスタグランジン E1 製剤 有効成分 アルプロスタジル
! 製剤・規格によって効能・効果、用法・用量が異なります!	

検索入力文字が3文字以上同一の医薬品（オーダ上間違いやすいもの）（多規格を除く）

<b>&lt;処方オーダ&gt;</b>	ジュリナ錠 (一般名:エストラジオール)	桂枝加芍薬大黃湯
<b>アエン</b>	プレマリン錠 (一般名:結合型エストロゲン)	<b>サイコ</b>
亜鉛華単軟膏「ニッコー」	ル・エストロジェル (一般名:エストラジオール)	柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒
亜鉛華軟膏	ホーリンV腔用錠 (一般名:エストリオール)	柴胡桂枝乾姜湯エキス顆粒
ノベルジン錠 (一般名:酢酸亜鉛水和物)	<b>エンサ</b>	柴胡桂枝湯エキス細粒
<b>アクト</b>	商品名、一般名に 「塩酸」のつく薬剤	<b>サムス</b>
アクトシン軟膏	<b>オイラ</b>	サムスカ錠
アクトネル錠	オイラックスHクリーム	サムスカ顆粒
ピオグリタゾン OD 錠 (アクトスで検索可能)	オイラックスクリーム	<b>ジエノ</b>
<b>アプレ</b>	<b>ガスト</b>	ジエノゲスト錠
アプレース錠	ガストローム顆粒	ディナゲスト錠 (一般名:ジエノゲスト)
アプレゾリン錠	ガストログラフィン経口・注腸用	ジェノトロピンゴークイック注
イメンドカプセル (一般名:アプレピタント)	ガストロゼピン錠	<b>ジユウ</b>
オテズラ錠 (一般名:アプレミラスト)	<b>カツコ</b>	十全大補湯エキス顆粒
<b>アリセ</b>	葛根湯エキス細粒	十味敗毒湯エキス顆粒
アリセプトD錠	葛根湯加川きゅう辛夷湯 エキス顆粒	<b>ジスロ</b>
アリセプトドライシロップ	葛根加朮附湯エキス細粒	ジスロマック錠
<b>イソソ</b>	<b>キシロ</b>	ジスロマックSR成人用ドライシロップ <sup>o</sup>
イソコロナールRカプセル (一般名:硝酸イソソルビド)	キシロカインゼリー	ジスロマック小児用細粒
硝酸イソソルビドテープ	キシロカインポンプスプレー	<b>シヨウ</b>
ニトロール錠 (一般名:硝酸イソソルビド)	キシロカイン液	小児用フルナーゼ点鼻液
ニトロールスプレー (一般名:硝酸イソソルビド)	<b>クラリ</b>	小児用ミケラン細粒
一硝酸イソソルビド錠	クラリスロマイシン錠、DS	小柴胡湯エキス細粒
イソソルビド内用液	クラリチン錠、ドライシロップ	小青竜湯エキス顆粒
<b>インチ</b>	ポノサップパック (クラリスロマイシン含有)	小半夏加茯苓湯エキス細粒
インチュニブ錠	<b>ケイシ</b>	小柴胡湯加桔梗石膏
茵ちん蒿湯	桂枝加竜骨牡蛎湯エキス顆粒	消風散エキス顆粒
茵ちん五苓散	桂枝加芍薬湯エキス顆粒	イソコロナールRカプセル (一般名:硝酸イソソルビド)
<b>エスト</b>	桂枝茯苓丸エキス顆粒	ニトロール (一般名:硝酸イソソルビド)
エストラーナテープ	桂枝加朮附湯エキス顆粒	ニトロールスプレー (一般名:硝酸イソソルビド)
エストラサイトカプセル	桂枝人參湯	硝酸イソソルビドテープ
エストリール錠	桂枝茯苓丸料加よく苡仁	ベリチーム配合顆粒 (一般名:膵臓性消化酵素)
		<b>ステリ</b>
		ステリクロンBエタノール液

ステリクロン W 液
ステリ・ネブ クロモリン吸入液
<b>ストロ</b>
ストロカイン錠
ストロメクトール錠
<b>スピロ</b>
スピロラクトン錠「日医工」
アルダクトン A 細粒 (一般名: <u>スピロラクトン</u> )
スピロピタン錠
スピロペント錠
<b>セファ</b>
セファクロルカプセル
セファクロル小児用細粒
セファランチン錠
セファランチン末
<b>セフジ</b>
セフジニル細粒
セフジニルカプセル
セフジトレンピボキシル錠
<b>ダイア</b>
ダイアート錠
ダイアコート軟膏
ダイアアップ坐剤
ダイアモックス錠
<b>タナト</b>
タナドーパ顆粒
タナトリル錠
<b>デスモ</b>
デスモプレシン・スプレー
デスモプレシン点鼻液協和
<b>トウキ</b>
当帰飲子
当帰四逆加呉茱萸生薑湯 エキス顆粒
当帰芍薬散エキス顆粒
当帰建中湯エキス顆粒
当帰湯エキス顆粒
<b>ニコチ</b>

ニコチネル TTS
ニコチン酸アミド散「ゾンネ」
<b>ニトロ</b>
ニトロール錠
ニトロールスプレー
ニトロダーム TTS
ニトロペン舌下錠
ミオコールスプレー (一般名: <u>ニトログリセリン</u> )
ミリストープ (一般名: <u>ニトログリセリン</u> )
<b>ニュー</b>
ニューレプチル錠
ニュープロパッチ
ロサルタン K 錠「DSEP」 (ニューロタンで検索可能)
<b>ネオー</b>
ネオーラルカプセル
ネオーラル内用液
<b>ノボラ</b>
ノボラピッド注
ノボラピッド注 30 ミックス
<b>ノボリ</b>
ノボリン 30R
ノボリン R 注
<b>パルミ</b>
パルミコートタービュヘイラー
パルミコート吸入液
<b>ハンゲ</b>
半夏瀉心湯エキス顆粒
半夏厚朴湯エキス細粒
半夏白朮天麻湯エキス顆粒
<b>ヒュー</b>
ヒューマトロップ注射用
ヒューマリン R 注
ヒューマログ注
ヒューマログミックス 50 注
<b>フルコ</b>
ジフルカンドライシロップ

(一般名: <u>フルコナゾール</u> )
フルコート軟膏
フルコナゾールカプセル「タカタ」
<b>フルメ</b>
フルメジン糖衣錠
フルメロン点眼液
フルオロメロン点眼液「わかもと」
<b>ブレド</b>
ブレドニゾロン散「タケダ」
ブレドニゾロン錠(旭化成)
ブレドニゾロン錠「NP」
ブレドニン錠
ブレドネマ注腸
クロマイ P 軟膏 (成分にブレドニゾロンを含む)
<b>プロク</b>
プロクトセディル軟膏
プログラフカプセル、顆粒
ノバミン錠 5mg (一般名: <u>プロクロルペラジン</u> )
<b>プロス</b>
プロスタール錠
プロスタグランジン E2 錠「科研」
プロスタンディン軟膏
<b>プロペ</b>
プロペシア錠
プロペト
ニューレプチル錠 (一般名: <u>プロペリシアジン</u> )
<b>フロリ</b>
フロリードゲル経口用
フロリネフ散
<b>ベスト</b>
ベストロン耳鼻科用
ベストロン点眼用
<b>ペンタ</b>
メサラジン錠 ( <u>ペンタサ</u> で検索可能)
ペンタサ注腸

ペンタサ坐剤
ペンタサ顆粒
ソセゴン錠 25mg (一般名: <u>ペンタゾシン</u> )
<b>ホーリ</b>
ホーリット散
ホーリン V 腔用錠
<b>マイル</b>
マイルスタン錠
マイルスタン細粒
ゾルピデム酒石酸塩 OD 錠 (マイルスリーで検索可能)
<b>ミドリ</b>
ミドリ M 点眼液
ミドリ P 点眼液
<b>メジコ</b>
メジコンシロップ
メジコン錠
<b>メプチ</b>
メプチンエアー
メプチンスイングヘラー
メプチン吸入液
メプチン錠
メプチンドライシロップ
<b>モーラ</b>
モーラステープ、テープ L
モーラスパップ、パップ XR
<b>ユベラ</b>
トコフェロールニコチン酸エステル カプセル 100mg「トーフ」 (ユベラNで検索可能)
ユベラ錠
ユベラ顆粒
ユベラ軟膏
<b>リザベ</b>
リザベнкаプセル
リザベンドライシロップ
<b>リーバ</b>
リーバクト配合経口ゼリー

リーバクト配合顆粒
<b>リボス</b>
リボスチン点眼液
リボスチン点鼻液
<b>リンデ</b>
リンデロン-V 軟膏
リンデロン-V クリーム
リンデロン-V ローション
リンデロン坐剤
点眼・点鼻用リンデロン A 液
眼・耳科用リンデロン A 軟膏
デキサン VG 軟膏 (リンデロンVGで検索可能)
ベタメタゾン錠「サワイ」 (リンデロンで検索可能)
ベタメタゾン酸エステル Na・PF 眼耳鼻科用液 (リンデロン・リンベタで検索可能)
<b>ロイコ</b>
ロイコボリン錠
ロイコン錠
<b>ロキソ</b>
ロキソニン錠
ロキソプロフェン錠「EMEC」
ロキソニンゲル
ロキソニンパップ
ロキソプロフェンテープ
ロキソプロフェン Na テープ「科研」
ロキソプロフェンナトリウムテープ 「タイホウ」
<b>&lt;注射オーダー&gt;</b>
<b>アルギ</b>
アルギメート点滴静注
アルギ U 点滴静注
<b>アルブ</b>
アルプロスタジル
アルファデクス注射用
アルプロスタジル
アルファデクス点滴静注用

アルプロスタジル注
<b>エルネ</b>
エルネオパ NF1 号
エルネオパ NF2 号
<b>エンサ</b>
商品名、一般名に 「塩酸」のつく薬剤
<b>オオツ</b>
大塚塩カル注
大塚蒸留水
大塚食塩注 10%
大塚生食注
大塚糖液 5%
大塚糖液 10%
大塚糖液 20%
大塚糖液 50%
オーツカ MV 注
<b>オプチ</b>
オプチレイ 320
オプチレイ 320 シリンジ
オプチレイ 350
オプチレイ 350 シリンジ
<b>オペガ</b>
オペガードネオキット眼灌流液
オペガンハイ 0.85 眼粘弾剤 1%
ヒアルロン酸 Na0.85 眼粘弾剤 1% 「コーワ」 (オペガンハイで検索可能)
<b>オムニ</b>
オムニスキャンシリンジ
オムニパーク
<b>カルボ</b>
カルボカイン注
カルボプラチン点滴静注液 (レジメンオーダーのみ)
<b>カンソ</b>
乾燥 BCG ワクチン
乾燥 HB グロブリン-ニチヤク
乾燥ガスえそ抗毒素「化血研」

乾燥ジフテリア抗毒素「化血研」
乾燥まむしウマ抗毒素
乾燥弱毒生水痘ワクチン
乾燥弱毒生風しんワクチン「北研」 (高橋株)
乾燥弱毒生麻しんワクチン
乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン
<b>キシロ(リドカ)</b>
キシロカイン注 1%
キシロカイン静注 2%
キシロカイン E 注
キシロカイン注ポリアンブ
<b>ケンケ</b>
献血ヴェノグロブリン-IH
献血グロベニン-I
献血ベニロン-I
献血ノンスロン 1500 注射用
<b>コート</b>
コートロシン Z 筋注
コートロシン注
<b>サンド</b>
サンドスタチン LAR 筋注用キット
オクトレオチド酢酸塩皮下注 「サンド」 (サンドスタチンで検索可能)
<b>スイヨ</b>
水溶性ヒドロコートン注射液
水溶性プレドニン
<b>ステラ</b>
ステラ-ラ皮下注シリンジ
ステラ-ラ点滴静注
<b>ソルデ</b>
ソルデム 1 輸液
ソルデム 3AG 輸液

ソルデム 3A 輸液
ソルデム 6 輸液
<b>チュウ</b>
商品名が注射用で始まるもの
<b>チンコ</b>
クアトロバック皮下注 (一般名:沈降精製百日せき ジフテリア破傷風不活化ポリオ 混合ワクチン)
沈降破傷風トキソイド「キット」
DT ビック (一般名:沈降ジフテリア 破傷風混合トキソイド)*
<b>ニトロ</b>
ニトログリセリン点滴静注
ニトログリセリン注シリンジ
ニトロール注シリンジ
ニトロール点滴静注バッグ
ニトロ持続静注液 (一般名:ニトロプルシド)
<b>ノボラ</b>
ノボラピッド注
ノボラピッド注 30 ミックス
<b>ハイカ</b>
ハイカムチン注射用 (レジメンオーダーのみ)
ハイカリック RF 輸液
ハイカリック液-1 号
<b>ヒーロ</b>
ヒーロン
ヒーロン V
<b>ヒュー</b>
ヒューマトロブ注射用
ヒューマリン R 注
ヒューマログ注

ヒューマログミックス 50 注
<b>ファン</b>
ファンガード点滴用
ファンギゾン注射用
<b>フィジ</b>
フィジオ 140
フィジオ 70
フィジオ 35
<b>ファイフ</b>
タコシール組織接着用シート (一般名:フィブリノゲン加第 XIII 因子)
ベリプラスト P コンビセット (一般名:フィブリノゲン加第 XIII 因子)
ボルヒール組織接着用 (一般名:フィブリノゲン加第 XIII 因子)
フィプロガミン P
フィブリノゲン-HT 静注用「JB」
<b>フルオ</b>
フルオロウラシル注「トーフ」 (レジメンオーダーのみ)
フルオレサイト
<b>ヘパリ</b>
ヘパリン Na ロックシリンジ
ヘパリン Na 注「モチダ」
ヘパリンナトリウム注「味の素」
ヘパリンカルシウム皮下注
<b>マーカ</b>
マーカイン注
マーカイン注脊麻用等比重
マーカイン注脊麻用高比重
<b>リユー</b>
リユープリン SR 注射用キット
リユープリン注射用, 注射用キット
リユープリン PRO 注射用キット

※上記内容は「薬剤部 INFORMATION」→「学内専用」→「各種一覧」にて掲載しております。

※後発医薬品の新規採用に伴い、先発医薬品と後発医薬品間もしくは後発医薬品間での名称類似薬が考えられます。併せてご注意いただくようお願い致します。